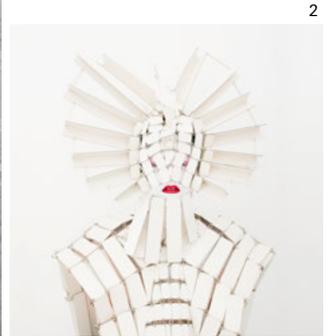


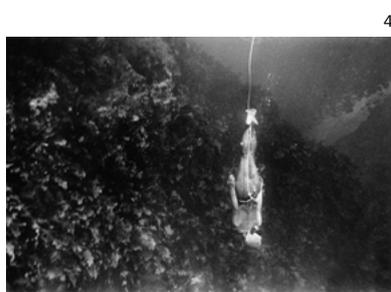
# KYOTO GRAPHIE

international  
photography festival

## 「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2015」 開催のご案内



1 マルク・リブー [Alaska]より、1958  
2 ヨシダ キミコ [絵画 (パオロ・ウッチェロ画サン・ロマーノの戦い)、セルフポートレート、2010]



3 ギメ東洋美術館よりアポリネール・ル・バ [日本の武者]、1864 4 フォスコ・マライーニ [海女の島]より、日本、1954  
5 フランシス・ウルフ [ジョン・コルトレーンアルバム『ブルー・トレイン』]に使用された写真、1957 6 榮榮&映里 [妻有物語]、2014



7 マルティン・グシンデ [セルクナム族の通過儀礼ハインにて、進化師ウレン役]、1918-1924, ca 8 ルーカス・フォーリア [ドングリとボッサムのシチュエ、ワイルドルーツホームステッドにて]、ノースカロライナ、2006 9 ロジャー・バレン [擬態]、2005 10 オリバー・ジーバー [ジェシー]、ドルトムント、2006



11 ノ・スンテク [reallyGood, murder]、2008 12 山谷佑介 [Tsugi no yoru e]、2010  
13 ルイ・ジャム [ブリビャチの子ども]、1991 14 ボードワン・ムアンダ [バコンゴのファッションista「サブール」]、2008

1: ©Marc Riboud 2: ©Kimiko Yoshida 3: ©Guimet National Museum of Asian Arts 4: ©2015 MCL - Vieusieux - Alinari 5: ©Mosaic Images LLC. 6: ©RongRong & inri 7: Martin Gusinde / Anthropos Institut / Editions Xavier Barral 8: ©Roger Ballen 9: ©Courtesy of galerie du jour agnès b, Paris ©Lucas Foglia 10: ©Oliver Sieber 11: ©Noh Suntag 12: Courtesy of Yuka Tsuruno Gallery ©Yusuke Yamatani 13: ©Louis Jammes 14: ©Baudoin Mouanda

## 「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2015」の開催が決定いたしましたので、ご案内させていただきます。

名称: KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 (英語表記: KYOTOGRAPHIE INTERNATIONAL PHOTOGRAPHY FESTIVAL)  
 会期: 2015年4月18日[土] - 5月10日[日] (プレビュー 4月17日[金]を含む24日間)  
 主催: KYOTOGRAPHIE 実行委員会 共催: 京都市、京都市教育委員会

### 「KYOTOGRAPHIEについて」

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」は、世界屈指の文化都市・京都を舞台に開催される、日本でも数少ない国際的な写真祭です。日本および海外の重要作家や貴重な写真コレクションを、趣のある歴史的建造物やモダンな近現代建築の空間に展開し、伝統工芸職人や最先端テクノロジーとのコラボレーションを実現するなど、京都ならではの特徴ある写真祭を目指しています。また、京都が一年でもっとも美しくと言われる春の季節に、約3週間にわたって開催されることも大きな特色の一つと言えるでしょう。

第3回目となる今年は、会場を15箇所に設置、計9カ国14組の作家が参加する予定となっています。また期間中は、展覧会場のほかに、市内各所の画廊、カフェ、教育施設など約30の会場で、国内外の若手作家展を中心としたサテライトイベント KG+(ケージープラス) や、子どもから大人までを対象とした様々なパブリックプログラムも多数予定されています。

私たちの社会や日常に不可欠なメディアとなっている写真ですが、芸術表現としてまだまだ大きな可能性を秘めています。この写真祭では、芸術写真における「見る者／見られる者」「写す者／写される者」といった関係のあり方を、様々な形で提案していきます。

### 「今年のテーマ「TRIBE: あなたはどこにいるのか?」

TRIBEを直訳すると「部族」となりますが、ここでは血や地域といった先天的なつながりだけでなく、個々人の意志で結ばれた様々な視点からなる人間の集まりを指しています。そして様々な視点とは、世界の先住民文化やその歴史はもちろん、現代ポップカルチャーまでもが含まれる、いわば表現しえる思想や文化全般に関わるものです。

新しいTRIBEという視点の発見が、誰もが尊く素晴らしいということを再認識させる一助となり、また情報過多のこの現代において自分の立ち位置を見つめ直すきっかけとなるよう、KYOTOGRAPHIE独自の視点からセレクトされた14の写真展を15の会場で行います。

### 「みどころの一部を紹介します」

#### ●シャネル・ネクサス・ホールによる、巨匠マルク・リブーの「Alaska」展が巡回 (1)

20世紀を代表する写真家マルク・リブーが1958年アラスカで撮影した未発表作品をフィーチャーし、シャネル・ネクサス・ホール(銀座)で企画・開催された話題の展覧会が、KYOTOGRAPHIEに巡回します(会場: 誉田屋源兵衛 黒蔵)。

#### ●注目の日本人作家はヨシダキミコと山谷佑介の2名 (2と12)

パリを拠点に、様式美あふれるセルフポートレートで多くの個展を開催してきたヨシダキミコの日本初の作品展が、GUCCIのサポートにより実現(会場: 花洛庵(野口家住宅))。また若手写真家からはドライブ感溢れるスナップで将来を期待される山谷佑介の参加が決定しました(会場: 無名舎)。

#### ●“ラスト・サムライ”を記録したギメ写真コレクションが世界初公開 (3)

一般初公開となるフランス国立ギメ東洋美術館所蔵の写真コレクション展では、幕末に撮影された希少な武士の肖像写真や、明治期に制作された外国人向けの写真などを展示します(会場: 虎屋 京都ギャラリー)。

#### ●ジャズ界伝説の写真家フランシス・ウルフのプリントが日本初上陸 (5)

名門ブルーノート・レコードで撮影を担当したフランシス・ウルフの写真は多くの音楽ファン、写真ファンを魅了してきました。今回は、数々の名盤ジャケットにも使用されたウルフの写真プリントや、やはり同レーベルでのグラフィック・ワークで知られるデザイナー、リード・マイルスの作品を含んだ貴重なアーカイブが、NYから初上陸します(会場: 嶋臺(しまだい)ギャラリー)。

#### ●世界的に注目される異才ロジャー・バレンの初個展 (9)

人種差別や貧困を扱いながら独特の世界観を表現する南アフリカ在住のアーティスト、ロジャー・バレン。待望の国内初個展を2つの会場にて開催します。新作45点を加えた新版写真集を世界初披露(予定)のレトロスペクティブ(会場: 堀川御池ギャラリー)に加えて、代表作「OUTLAND」シリーズから最新映像作品を世界初上映(会場: コム デ ギャルソン京都店)いたします。各国で評価が高まるバレンの作品世界に触れる最良の機会となるでしょう。

## [展覧会リスト]

1	マルク・リブー Marc Riboud	フランス	「Alaska」 presented by CHANEL NEXUS HALL	誉田屋源兵衛 黒蔵
2	ヨシダ キミコ Kimiko Yoshida	日本、フランス	タイトル未定	花洛庵（野口家住宅）
3	フランス国立ギメ東洋美術館・写真コレクション Collection MNAA- Guimet	フランス	ラストサムライ（仮題）	虎屋 京都ギャラリー
4	フォスコ・マライニ Fosco Maraini	イタリア	海女の島（仮題）	バスザバトン京都祇園店（2015夏OPEN 予定地）
5	フランシス・ウルフ Francis Wolff	ドイツ、アメリカ	フランシス・ウルフとブルーノート・レコード（仮題）	嶋臺（しまだい）ギャラリー
6	榮榮&映里（ロンロン&インリ） RongRong & inri	中国、日本	妻有物語	両足院（建仁寺）
7	マルティン・グシンデ Martin Gusinde	ドイツ	パタゴニア地方のセルクナム族、ヤマナ族、アラカルフ族（仮題）	《会場最終調整中》
8	ルーカス・フォーリア Lucas Foglia	アメリカ	ア・ナチュラル・オーダー（仮題）	有斐斎 弘道館
9	ロジャー・バレン Roger Ballen	アメリカ、南ア	ロジャー・バレン：黄泉の国 1969-2014（仮題）	堀川御池ギャラリー コム デ ギャルソン京都店
10	オリバー・ジーバー Oliver Sieber	ドイツ	イマジナリー・クラブ	ASPHODEL
11	ノ・スンテク Suttgart Noh	韓国	reallyGood, Murder	ギャラリー素形
12	山谷佑介 Yusuke Yamatani	日本	Tsugi no yoru e	無名舎
13	ルイ・ジャム Louis Jammes	フランス	チェルノブイリ	SferaExhibition《予定》
14	ボードワン・ムアンダ Baudoin Mouanda	コンゴ	バコンゴのファッションista 「サブール」（仮題）*	村上重ビル

\* はプロジェクションでの展示

## [スペシャルイベントも多数予定]

## 1) 写真家向け連続講座「ICP マスタークラス」を開催

ニューヨークに所在するICP(International Center of Photography)は、半世紀以上にわたり写真文化の保護と育成に貢献してきた世界有数の写真専門施設。KYOTOGRAPHIEでは会期中、このICPから専門スタッフを招き、写真家向け連続講座「ICP マスタークラス」を開催する予定です。この企画は、ICPとKYOTOGRAPHIEとのパートナーシップ提携が決定したことにより実現しました。詳細は近日ウェブサイトにて発表します。

## 2) 「KYOTOGRAPHIE ポートフォリオレビュー」を本年度よりスタート

キュレーターやギャラリスト、編集者など、写真分野の第一線で活躍する専門家が直接対面し、参加者のポートフォリオについてダイレクトにコメントします。写真家を志す方々にとって、自身の作品が世界の写真業界インサイダーの目に触れる絶好のチャンスとなることでしょう。申し込みは2月1日より開始予定。詳細は近日ウェブサイトにて発表します。

## 3) 「ブルーノートレコード」に関連する音楽イベントを多数開催

展示会場に併設のジャズラウンジを設置。また、デビュー 20周年を迎えたKYOTO JAZZ MASSIVEの沖野修也とのコラボレーションによるジャズディナーショーを予定しています。

## 4) 約30におよぶ多彩なパブリックプログラム

参加アーティストによる国際色豊かなトークショーや、希少なコロタイプ印刷工房を保有する「便利堂」でのワークショップ、また子供たちがのびのびと写真表現を学べるキッズプログラムなど、幅広い客層にむけた様々な教育プログラムを企画中!

## お問い合わせ先

- ◎ KYOTOGRAPHIE 東京広報担当 森繁  
tokyopress@kyotographie.jp Tel. 03-3725-8877 (traffic内)
- ◎ KYOTOGRAPHIE 事務局内広報担当 矢田(日)、パジェ(英仏)  
press@kyotographie.jp Tel / Fax. 075-708-7108